

第1章 ソーシャルキャピタルのコミュニティ間比較のためのベンチマーク 作成に関する予備的検討

研究分担者 稲葉陽二 日本大学法学部 教授

【研究要旨】本稿では、社会関係資本を広義にとらえ、コミュニティの構成員のデータから、ミクロ、メゾ、マクロの三段階で、コミュニティにおける社会関係資本の多様性を示すモデルのプロトタイプを提示した。

このモデルは、社会関係資本からみたコミュニティの構成員の特性（ミクロレベル）、それを反映したコミュニティの特性（メゾレベル）、また社会全体への寛容度（マクロレベル）を、全国平均などのベンチマークとの比較に基づいて可視化することができる。

A．研究目的

地域の健康や福祉に好影響をもたらすとされる社会関係資本は、認知的ソーシャルキャピタル（人に対する信頼、分かち合い、互酬性などコミュニティの特性に対する個人の認知）と、構造的ソーシャルキャピタル（社会的ネットワークの強さ、市民参加など外面的に観察できるもの）の両面から観察され、それぞれのコミュニティごとに地域特性があるとされている。確かに、大都市における社会関係資本と地方都市やその周辺部における社会関係資本との間には大きな違いがあることは想像に難くない。また、SNSなどのヴァーチャル・コミュニティもそれぞれ独自の特性をもつことは十分予想される。しかし、現実にそれぞれのコミュニティにおける社会関係資本がどの程度特殊であるかは、標準的なベンチマークが存在しないので、明らかではない。本稿は、それぞれの地域、コミュニティにおける社会関係資本の特性を測るためのベンチマークについて検討し、将来、社会関

係資本の観点からより具体的なコミュニティ間の比較を可能にするための問題点を検討する。

B．研究方法

本稿では、以下の方法で社会関係資本に関するベンチマークを作成するための検討を行う。

- 1．社会関係資本の定義に関する議論をまとめ、社会関係資本の基本的構成要素を定める。
- 2．社会関係資本のコミュニティにおけるあり方を明示する概念モデルの検討を行う。

C．研究結果

1．社会関係資本の構成要素

Sato（2013）は、社会関係資本の理解には以下の四つの側面が重要としている。すなわち、1)社会関係資本を用いるアクターの目的（goals）と効用、2)定義のレベル（公共財か、クラブ財か、私的財か）、3)特定地域か社会全体か、といった適用範囲

(coverage) 4)タイプ(認知型か構造型か、橋渡し型か結束型かなど)の四つである。

このほか、Sato (2013) は社会関係資本の形成について、それが ミクロ、メゾ、マクロのどのレベルで形成されたか、2)それが意図して形成されたか、意図されずに形成されたか、の違いを認識する必要を指摘している。

Sato の指摘する四つの側面は、定義の整理と概念の理解に極めて有用である。ただし、1)の効用を導入する観点は、基本的にミクロレベルの個人の効用関数を前提とする立場であるが、社会関係資本の論者の多く、たとえばパットナムやフクヤマらは何らかのコミュニティを形成した場合の協調的な行動を論じている。つまり、コミュニティなどのメゾないしはマクロレベルの社会的厚生が社会関係資本を含めた個人の効用を上回る(ないしは下回る)状態に興味があるので、その部分で理論的な補完が必要である。

また、2)定義のレベル(公共財か、クラブ財か、私的財か)と 3)特定地域か社会全体か、といった適用範囲(coverage)は、公共財は社会全体、クラブ財は特定の地域、私的財はアクターの日常生活の範囲、つまりマクロ、メゾ、ミクロにそれぞれ対応しているケースがほとんどであろうから、基本的には対象の範囲を特定すれば財の性格も特定される。

社会関係資本の定義にはさまざまものがあるが、Lin (2001, pp.24-25) は「社会関係資本は人々が何らかの行為を行うためにアクセスし活用する社会的ネットワークに埋め込まれた資源(筒井淳也ほか訳、p.32)と定義している。つまり、リンによれば、社会関係資本の本質はネットワークから生

まれる資源であるから、ネットワークの存在が社会関係資本に不可欠である。また、Uslaner(2002)は信頼のみを扱っている。

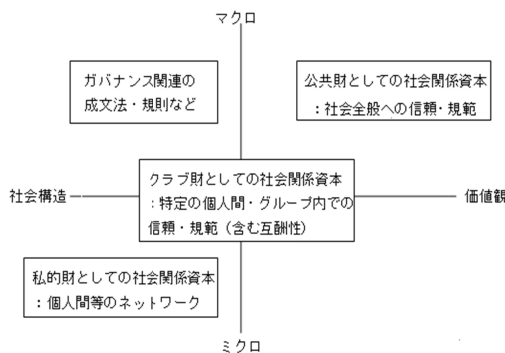
一方 Putnam (1993) は、社会関係資本の定義を「協調的行動を容易にすることにより社会の効率を改善しうる信頼・規範・ネットワークなどの社会的仕組みの特徴」とした。この定義は社会関係資本の定義としてもっとも人口に膾炙したものであり、その後の社会関係資本研究の呼び水となったものだが、信頼・規範・ネットワークを並列している。また、Ostrom (2003) も社会関係資本の定義として「協調的行動問題を解決する個人の能力を高める個人や個人の関係の属性。信頼性、ネットワーク、公式・非公式のルールすなわち制度の三つが重要」(p. xiv) として、ネットワーク以外にも信頼性と制度をあげている。このように、社会関係資本の定義には、ネットワークや信頼などを社会関係資本とする狭義の定義と、ネットワークだけでなく信頼(あるいは信頼性)や規範、制度などを含める広義の定義がある。

また、ネットワーク論に限ってみても、グループ全体のネットワークに焦点を置き、コミュニティや社会全体のソシオセントリックな立場を重視するグループと、ミクロの個人に焦点を置きエゴセントリックな立場を重視するグループがあるが、前者は主に広義の定義を用い、後者は狭義の定義を用いる傾向がある。換言すれば、前者は公共財ないしは準公共財としてのクラブ財を重視する傾向があり、後者は私的財としてのコネなどを重視する。したがって、当然のことながら、前者は主に社会全体や特定のコミュニティなどのメゾレベルを対象とするのに対し、後者は特定の組織の中の人

間関係や純粋に個人のネットワークが研究対象となる傾向がある。

稲葉（2005）は社会関係資本の定義を分類するために、縦軸にマクロからミクロ、横軸に cognitive から structural をとる Grootaert と Von Bastelaert（2002）らの図に公共財、クラブ財、私的財をあてはめ、図表 1 のような分類をしている。筆者の定義は、ネットワークだけでなく信頼と規範をも含めた広義の定義をとっている。コミュニティを含めたグループ内のまとまりの程度を凝集性 (cohesion) と呼んでいるが、社会関係資本が凝集性と密接に関連するとすれば、信頼、規範、ネットワークなどを別々に論じるよりも、三つをすべて含めて論じるほうが凝集性の背景にある社会状況をより適切に扱えると考えからである。

図表 1



（出所）稲葉（2005）

また、社会関係資本は個人や団体がコミュニティにおけるそれぞれの過去から現在までのあり方までもあらわしているストックの概念だとすれば、社会関係資本を単にネットワークと考えるのは誤りであろう。

また、広義の社会関係資本はミクロとマクロを結びつけるミクロ - マクロ・リンクのベースとなる概念としても有用だと考え

られる。Ostrom(1999)と Ostrom and Ahn（2009）が示すように、信頼、互酬性の規範、ネットワークを含む広義の社会関係資本は、コミュニティの全体像をとらえるための包括的な見方を提供することができる。Ahn and Ostrom（2008, p.90）は「社会関係資本は、信頼性、ネットワーク、制度がどのように個人の行動と集団の協調的な結果に影響を与えるかという観点から、集団的行動の成功と失敗の理由を研究する際に有用な評価概念 (rubric concept) である」としている。つまり、ミクロレベルの個人がメゾ・マクロレベルの集団とどのような関係にあるかを示すのに、社会関係資本は有用であるという。また、三隅（2013）も「社会関係資本の蓄積は、関係 - 社会構造系のマイクロ・マクロ・リンクと密接な関係をもっている」(p.28) と述べている。

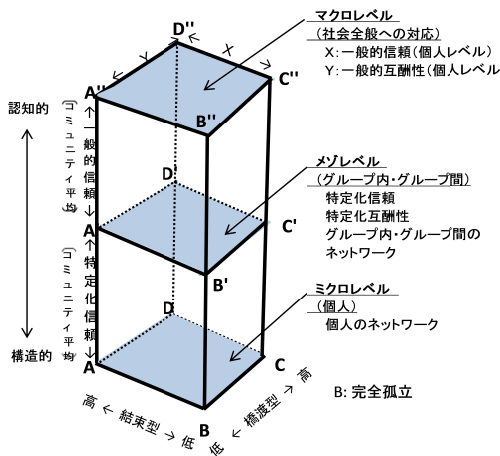
社会関係資本を広義にとらえるとすれば、信頼、規範、ネットワークそれぞれの特性について、ミクロ、メゾ、マクロそれぞれのレベルでとらえることができるモデルが必要になる。また、信頼については、信頼と信頼性を区別し、規範については互酬性が制度か、ネットワークについては結束型か橋渡し型か、等が明らかにされていることが望ましい。

2. 社会関係資本のコミュニティモデル

前節の議論を踏まえて、レベル(ミクロ、メゾ、マクロ) ネットワークの性質(結束型か橋渡し型か) 信頼か信頼性か、規範の性格(たとえば一般的互酬性が特定化互酬性か)などを反映できるモデルとして、以下に示す。

図表 2

社会関係資本からみたコミュニティ構造



(出所) Inaba (2013)

広義の社会関係資本は次の四つを示している。1)コミュニティの個人メンバー間の関係、2)コミュニティの状況、3)個人とコミュニティの関係、4)コミュニティ内での寛容度の水準である。これらすべてが、コミュニティがどのように統治されるのかに密接に関係する¹⁾。

広義の社会関係資本は、コミュニティが持つ社会関係資本を、レベル(ミクロ、メゾ、マクロ)、ネットワークの性質(結束型か橋渡し型か)、一般的信頼と特定化信頼の程度、規範の程度(たとえば一般的互酬性か特定化互酬性か)の四つの観点からとらえることができる。また、一般的信頼と一般的互酬性は社会全体の寛容性の指標でもある。

コミュニティは規模(市町村、学区など)、形態(地理的なものか、空間上のヴァーチャルなものか)、関係基盤(地縁、学校、職場、趣味のサークルなど)に応じてさま

ざまであるが、とりあえずは国勢調査ベースでの町丁目程度の規模の近隣地区をイメージしている。また、結束型社会関係資本、橋渡し型社会関係資本、一般的信頼、一般的互酬性、特定化信頼、特定化互酬性の程度を示すものであるが、これらはいずれも個人レベルとコミュニティ全体のデータの二種類がある。三次元の立体図形で示しているが、個々の点は全国レベルの調査結果との比較など、何らかのベンチマークとの比較で示される。

図表 2 のモデルでは、特定のコミュニティにおける社会関係資本をミクロ(個人)、メゾ(コミュニティ)、マクロ(社会全般)の三つのレベルから検討する。ミクロ(個人)レベルとメゾレベルは、X軸に結束型社会関係資本の程度、Y軸に橋渡し型社会関係資本の程度を表している。また、それぞれのレベルはミクロレベルでは、コミュニティの個々のアクターがもつネットワークの特質を結束型と橋渡し型の二つの観点から評価し、個々のアクターの特性を示す点をプロットする。ミクロレベルの点Bは結束型社会関係資本も橋渡し型社会関係資本もともにもたない孤立したアクターを示し、点Dは逆に、結束型社会関係資本も橋渡し型社会関係資本も豊富にもつアクターを、点Aは結束型社会関係資本のみで橋渡し型社会関係資本をもたないアクターを、点Cは橋渡し型社会関係資本のみで結束型社会関係資本をもたないアクターをそれぞれ示している。したがって、ミクロレベルでは、そのコミュニティに属するアクター一人ひとりについての橋渡し型社会関係資本と結束型社会関係資本の保有状況を示す点が記述される。一般的にコミュニティ内のアクターの多くが孤立している場合は、

¹ Bowls and Gintis (2002) は、ソーシャルキャピタルの代わりにコミュニティ・ガバナンスという用語を用いることを提唱した。

マイクロレベルの平面図は、右下の点Bの周辺に多く集中し、逆にアクターの多くが橋渡し型社会関係資本と結束型社会関係資本の双方をもっているコミュニティでは点Dの周辺に多く集中する。また、結束型社会関係資本のみをもつアクターが多いコミュニティでは点Aの周辺に集中し、アクターの多くが橋渡し型社会関係資本のみをもつコミュニティでは点Cの周辺に集中する。

具体的には、誰もが互いに知り合いだが、よそ者つきあいが無い、といったコミュニティは点Aの周辺に集中し、コミュニティ外の人とはつきあいがあるが、コミュニティのなかでは孤立している者が多い場合は点Cの周辺に集中する。コミュニティのまとまりのよさを凝集性とすれば、凝集性の高いコミュニティはAD側によった領域に多くのアクターが存在している。対外的に開いたネットワークをもったアクターが多い場合は、CD側に多くのアクターが存在する。また、Coleman(1988)は対外的に閉じたネットワークと開いたネットワークの違いを論じたが、閉じたネットワークはA点周辺、開いたネットワークはC点周辺に存在するアクターが多いことになる。

個人レベルは、個々のアクターのネットワークを結束型と橋渡し型の二つの側面から当該コミュニティの構成員一人ひとりについてプロットするものだが、メゾ(コミュニティ)レベルは個々のアクターの平均値をプロットしたもので、当該コミュニティの結束型と橋渡し型の二つの観点からみたコミュニティの性格をプロットした一点のみになる。また、個人レベルとメゾレベルの距離は特定化信頼と特定化互酬性の程度を表す。特定化信頼と特定化互酬性が高いコミュニティほど両者の距離が大きく、

逆に特定化信頼と特定化互酬性が低いコミュニティほど個人レベルとメゾレベルの距離が短い。したがって、マイクロレベルとメゾレベルとの間の錐形は、コミュニティの平均としての特定化信頼が高いほど高くなる。また、マイクロレベルでアクターが多様(ABCDに分散して存在している)なほど錐形の容積は大きくなる。逆にアクターの同質性が高い(マイクロレベルの平面の一点に集中している)ほど、錐形の容積は小さくなる。

社会全般への信頼と互酬性である一般的信頼と一般的互酬性は、個人レベルと、個人レベルの平均値としてコミュニティ全体のものとして二つあるが、個人レベルの一般的信頼と一般的互酬性はマクロレベルの平面でプロットされる。一般的信頼はA" B"軸に、一般的互酬性はC" B"軸にとり、コミュニティの構成員全員の水準をプロットする。また、コミュニティ全体の平均値としての一般的信頼はマクロレベルとメゾレベルの距離で表される。コミュニティの平均値として一般的信頼が高ければ高いほど、メゾレベルとマクロレベルの距離は長くなるが、マイクロレベルの点Bは完全孤立であるので、この点Bに対応するB'とB"との距離は一般的にはきわめて短いものと考えられる。メゾレベルとマクロレベルの間は、逆錐形なるが、コミュニティの一般的信頼と一般的互酬性に関する認識がアクター間で大きく異なるコミュニティは容積が大きく、同質である場合は容積が小さくなる。

このモデルはマイクロレベルとマクロレベルはコミュニティの構成員全員の点がプロットされ、メゾレベルではコミュニティの平均値としての結束型社会関係資本と橋渡

し型社会関係資本の程度が表示されるので、コミュニティごとにその特性に応じて砂時計型のデータが作成される。コミュニティの構成員がもつネットワークは、社会関係資本という概念のなかで包摂することにより、コミュニティの基本的な構造を表すことができるようになる。コミュニティのグループ間での特定化信頼は彼らのなかで共有された価値を示す。一方、社会全体に対する信頼は自分たちと異なった異質なものに対する寛大さの水準を示している。つまり、新しい何かを受け止める個人とコミュニティの能力水準を示している。

D．考察

ミクロの個人レベルでは以下の四つの類型が想定できる。

- 1)高結束・低橋渡し型 外部から隔絶したコミュニティであるがコミュニティ内部での結束は高い。地域村落型コミュニティ。
- 2)低結束・高橋渡し型 コミュニティ内部の結束は低いが個々のアクターはコミュニティの外との紐帯をもっている。都市型コミュニティ。
- 3)高結束・高橋渡し型 コミュニティ内部の結束も高く、かつ個々のアクターはコミュニティの外との紐帯をもっている。外部からの変化に対応するレジリアンスが高い。
- 4)低結束・低橋渡し型 コミュニティ内部での結束が低く、かつ外部とのつながりも少ない孤立型。外部からの変化に対応するレジリアンスは低い。

メゾ（コミュニティ）レベルでは個人レベルの平均値としての結束型社会関係資本と橋渡し型社会関係資本の水準がプロット

される。メゾレベルはミクロレベルの平均値であるので、一般にはミクロレベルの類型がメゾレベルでも投影されるが、メゾレベルの中心点はミクロレベルでは多様な組み合わせがあり得る。たとえば、ミクロレベルで高結束・高橋渡し型のグループと低結束・低橋渡し型のグループに二極化しているケースは、全員は平均的な結束型と橋渡し型をもっているケースと、メゾレベルでは同じ点で表されるが、両者の立体的な形状は大きく異なる。

マクロレベルはコミュニティの構成員の社会全般への利他性と社会への寛容性を反映している。一般的には一般的信頼と一般的互酬性がともに欠如しているB”点は、一般的信頼と一般的互酬性がともに富むD”点よりも利他性が低いことが予想される。

ここで提議したコミュニティの社会関係資本モデルは全国レベルのデータなど何らかのベンチマークを基準に作成されるので、たとえば全国平均などのベンチマークと比較した社会関係資本からみたコミュニティの特性が明らかになる。社会関係資本に乏しいコミュニティは物理的に小さく、富んだコミュニティ大きく表示される。加えて、社会関係資本のどの部分が豊かで、どの部分が欠けているかが可視化できる。また、このモデルはあくまでも個人レベルのデータに基づいている点でミクロレベルに基礎を置いているが、同時にコミュニティ全体からみた一般的信頼や一般的互酬性などの構造的な社会関係資本、つまりマクロからみた社会関係資本の位置づけをも示している点で、ミクロ・マクロ・リンクの指標として用いることもできる。

E . 結論

本稿では、社会関係資本を広義にとらえ、コミュニティの構成員のデータから、ミクロ、メゾ、マクロの三段階で、コミュニティにおける社会関係資本の多様性を示すモデルのプロトタイプを提示した。

このモデルは、社会関係資本からみたコミュニティの構成員の特性(ミクロレベル)、それを反映したコミュニティの特性(メゾレベル)、また社会全体への寛容度(マクロレベル)を、全国平均などのベンチマークとの比較に基づいて可視化することができる。

F . 引用文献

- 1) Ahn, T.K. & Elinor Ostrom (2008) "Social capital and collective action", In Castiglione, Dario, Jan W. Van Deth & G. Wolleb (Eds.) *The Handbook of Social Capital*, Oxford University Press, pp.70-100.
- 2) Bowles, Samuel & H. Gintis (2002) "Social Capital and Community Governance", *The Economic Journal*, 112, F419-F436.
- 3) Grootaert, C. and T. van Bastelart (Eds.) (2002) *Understanding and Measuring Social Capital. A Multidisciplinary Tool for Practitioners*, The World Bank.
- 4) Inaba, Yoji (2013). What's Wrong with Social Capital? Critiques from Social Science, In Ichiro Kawachi, Soshi Takao, & S.V. Subramanian (Eds.) *Global Perspectives on Social Capital and Health*, pp.323-342, Springer.
- 5) Lin, Nan (2001) *Social Capital: Theory of Social Structure and Action*, Cambridge University Press. (ナン・リン 著 筒井淳也・石田光規・桜井政成・三輪哲・土岐智賀子訳 [2008] 『ソーシャル・キャピタル 社会構造と行為の理論』 ミネルヴァ書房。)
- 6) Ostrom, Elinor & T.K. Ahn (2003) "Introduction", In Elinor Ostrom & T.K.Ahn (Eds.) *Foundations of Social Capital*, Edward Elgar, pp.xi-xxxix.
- 7) Ostrom, Elinor & T.K. Ahn (2009) "The meaning of social capital and its link to collective action", In G.T. Svendsen & G.L.H. Svendsen (Eds.) *Handbook of Social Capital: The Troika of Sociology, Political Science and Economics*, Edward Elgar, pp.17-35.
- 8) Sato, Yoshimichi (2013) "Social Capital", *sociopedia*. International Sociological Association. <http://www.sagepub.net/isa/admin/viewPDF.aspx?art=SocialCapital.pdf>(2014年3月19日アクセス)
- 9) Uslaner, M. Eric (2002) *The Moral Foundations of Trust*, Cambridge University Press.
- 10) Putnam, D. Robert (1993) *Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy*, Princeton. (河田潤一訳 [2001] 『哲学する民主主義 伝統と改革の市民的構造』 NTT 出版。)
- 11) 稲葉陽二：ソーシャル・キャピタルの経済的含意—心の外部性とどう向き合うか』 『計画行政』 日本計画行政学会，28(4)：17-22，2005。
- 12) 三隅一人：社会関係資本 理論統合の挑戦，2013。ミネルヴァ書房。

G . 研究発表

1 . 論文発表

Inaba, Yoji (2013). What's Wrong with Social Capital? Critiques from Social Science, In Ichiro Kawachi, Soshi Takao, & S.V. Subramanian (Eds.) *Global Perspectives on Social Capital and Health*, pp.323-342, Springer.

2 . 学会発表

なし

H . 知的所有権の取得状況

なし